

秋の静かな風情の中にも徐々に冬の足音が聞こえてくる季節となりましたが、今月号では、鉄道にまつわる「音と振動」を特集としてお届けしました。音や振動は、私たちが耳や体で感じることができる身近なものですが、この誌面でそれを直接お伝えすることができず残念です。

雑誌や小説などで「ガタンゴトン」や「列車に揺られて」などのフレーズがよく使われるように、音や振動は鉄道のある風景を私たちに思い浮かばせてくれます。そして、時にはその想像した情景が我々に癒しを与えてくれることもあるでしょう。最

近では徐々にその姿を消しつつある寝台列車に、私が初めて乗った時、その音や振動が時には眠りづらくもあり、時には心地よい眠りにつかせてくれたのが思い出されます。最近話題の豪華寝台列車では、乗り心地の良さがアピールされていますので、一度は体感してみたいものです。

次号では、鉄道という言葉の原点でもあるレールやまくらぎに焦点を当てて、「軌道技術」の特集を予定しています。ご期待下さい。(K.N.)